社　会　福　祉　学　科

書　名：気仙川
著　者：畠山直哉
出版社：河出書房新社

所　在　：7F開架閲覧室
請求記号：748/H41
資料ＩＤ：03737330

畠山直哉という写真家が、東日本大震災の津波で壊滅した故郷の陸前高田の風景を撮影した写真集ですが、各ページに震災の発生から母の住む陸前高田に畠山氏が東京からバイクで駆けつけるまでを記録した文章が付いています。
震災前の、のどかで美しい自然、人々の生活の営みや夏祭り。気仙川の川面を眺める母の姿。そして、陸前高田に到着して見た、変わり果てた町。川のほとりに住む母は無事だったのか？震災のときにまだ幼かった学生のみなさんに、大人になった今、読んでほしい本です。

畠山氏による後の写真集には、復興する陸前高田を撮影した『陸前高田』（河出書房新社、2015年）、『津波の木』（小学館、2024年）もあります。

社　会　福　祉　学　科

書　名：仮放免の子どもたち
「日本人ファースト」の標的
著　者：池尾伸一
出版社：講談社

所　在　：6F開架閲覧室
請求記号：329.94/I34
資料ＩＤ：14169881

外国人が日本で暮らすためには、「在留資格」が必要です。「在留資格」がなければ、「強制送還」（強制的に自分の国に送り返される）の対象になります。しかし、自分の国に「強制送還」されると捕まえられて拷問を受けたり殺されたりする場合もあることから、「仮放免（かりほうめん）」の状態で日本で暮らす外国人がいます。この場合、入国管理局の施設には収容されずにすみますが、働くことが禁止され、国民健康保険にも入れず、住んでいる都道府県から許可なく外に出られません。

この本は、そのような状態にある子どもの現状を新聞記者がレポートしたものです。「見えない子どもたち」の存在に関心を向け、子どもの人権を考えてみませんか。

社　会　福　祉　学　科

書　名：AI親友論 京大哲学講義
著　者：出口康夫
出版社：徳間書店

所　在　：6F開架閲覧室
請求記号：007.13/D53
資料ＩＤ：04802969

人工知能「AI」を哲学はどう見ることができるのか。このことを示す良い本です。２０世紀を通じて、環境の問題や生命倫理の問題など、さまざまな問題が顕在化ししてきました。AIの助けを借りることで、人間は手仕事により時間をかけられるようになりました。手仕事等を通しての「人間が持っている幸福」そのものに改めて気づけるかもしれません。
日に日に身近になっていくＡＩです。
「ＡＩとともだちになれる？」考えてみませんか。

社　会　福　祉　学　科

書　名：AIという鏡 人の価値とは何か
著　者：佐々木閑,佐々木斎生
出版社：法蔵館

所　在　：6F開架閲覧室
請求記号：007.13/Sa75
資料ＩＤ：14220518

AIというものを考えるにあたって、私たちは科学技術の問題と、人間とは何かという問題、これを同時に考えることが求められます。AIは人間が考えたデータだけで動いています。人間が良質なデータを入れなければ良質なAIにならないわけで、良質なデータを入れられる良質な人間の存在が必要です。AIの問題は人間の問題です。

タイトルの「AIが鏡」というのは、鏡には自分の顔しか映りません、そこで、AIは人間がなんであるかを教えてくれますが、それ以上のモノではありません。改めて、AIについて考える機会となることでしょう。

社　会　福　祉　学　科

書　名：それでも息子を日本の小学校に通わせたい
著　者：山崎エマ
出版社：新潮社

所　在　：6F開架閲覧室
請求記号：376.14/I75
資料ＩＤ：04802969

ドキュメンタリー映画「小学校～それは小さな社会」は国内外で話題を集めました。東京都世田谷区の公立小学校に密着し、児童の日常を１年にわたって追ったドキュメンタリー映画です。その映画監督の山崎エマさんが書いた著書です。

日本社会の核となるもののひとつが小学校教育にあるのではと注目し、１年間の子供たちのドキュメント記録となりました。この著書はその記録から考察したもので、小学生の時期に集団生活を優先して学べる環境についての意義を述べています。同時に小学校には課題があることにも触れられています。自分自身の小学校への振り返りや、教員を考えている皆さんには、広い視野を与えてくれることでしょう。